科目名	翻訳論特殊研究	担当者	アキクサ 秋草　シュンイチロウ 俊一郎	期間	通年	単位数	4

【科目概要】

目　的	文芸思想のひとつである翻訳研究を行う上で必要な知識をえるための文献を読む授業。前期は代表的な翻訳研究者ローレンス・ヴェヌティのモノグラフを，後期は、「新しい比較文学」を標榜する学術書を精読していく。Translation は翻訳について考える上で必要なトピックが一通り触れられており，参考になる。また，アプターの著作は概念モデルとしての「翻訳」が，さまざまな事象を考えるうえでどこまで有効なのか，手がかりになる。後期にかんしては受講者の関心，進度状況に応じて柔軟に教材を選定することも考えたい。 以上の書籍の通読，リポートの作成を通じて，専門的な英文読解能力，論理的・批判的思考能力をはじめ，問題発見・解決力を身に付けることを目指す。
到達目標	【一般目標（GIO)】 英語の学術書を精読し，内容について批判的に議論できるようになること。 英語を含む参考文献・引用・注の体裁をととのえた学術論文の執筆形式に習熟すること。 【行動目標（SBOs)】 英語の学術書を数か月で通読できる語学力の獲得。内容を適切に要約・説明しうる翻訳力の獲得。
学修方略 （方法）	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 インタラクティヴなリポート提出システム manaba を用いる。そのうえで面接ゼミ・サイバー・ゼミのいずれかに参加し，ディスカッション，課題リポートについての報告をおこなうことが推奨される。 【学修方略（LS)】 自主研究。教材および関係資料を精読のうえで課題にとりくむ。リポート作成にあたっては，草稿から最終稿に至るまで，履修者と教員のあいだでやりとりをしながら段階的にすすめる。 【学修時間】 各リポート課題の準備から完成までに，以下を目安に最低 45 時間の学修時間を要するものとする。 教材の学修：15 時間　　リポート執筆：15 時間 リポート推敲（教員の添削指導を含む)・最終稿の完成：15 時間
スケジュール	前期：6 月 10 日までに教材 1 のリポート課題(1)初稿を提出。 7 月 10 日までに教材 1 のリポート課題(1)最終稿を提出。 8 月 10 日までに教材 1 のリポート課題(2)初稿を提出。 前期提出期限までに教材 1 のリポート課題(2)最終稿を提出。 後期：10 月 10 日までに教材 2 のリポート課題(1)初稿を提出。 11 月 10 日までに教材 2 のリポート課題(1)最終稿を提出。 12 月 10 日までに教材 2 のリポート課題(2)初稿を提出。 後期提出期限までに教材 2 のリポート課題(2)最終稿を提出。

成績評価	種　別	割合	評価基準
	リポート	80 ％	教材を精読理解し，課題に応える内容となっているか，また，学術論文の体裁が整っているか評価する。
	観察記録	20 ％	メール，manaba，ゼミ等を活用して積極的に課題に取り組んだかを評価する。

履修者への要望	前期はやや大変と思われるかもしれないが，英語で学術文献を精読できることは博士論文執筆の最低条件であるので，一年をかけて二冊の学術書を読むことで英語読解力を養成してほしい。

【リポート課題】

基　本　教　材　1	
教材の概要	著者名：　Lawrence Venuti, *The Translator's Invisibility: A History of Translation,* New York: Routledge, 2008. ISBN-10: 0415394538 教材名：
	総ページ数は 300 頁ほどの，翻訳研究にとって有意義なモノグラフ。実例も豊富で，テーマ別に議論されており，推奨できる内容である。
参考図書	マシュー・レイノルズ『翻訳――訳すことのストラテジー』秋草俊一郎訳，白水社，2019 年。2300 円＋税。ISBN-10: 4560096856 ローレンス・ヴェヌティ『翻訳のスキャンダル（仮)』秋草俊一郎・柳田麻里訳，フィルムアート社（2021 年刊行予定）
履修上のポイント	当然ながら，引用されている文献，関連文献にできるだけ目を通してから課題に挑戦すること。
リポート課題 1	課題図書から，任意の章を三つ，要約しなさい（各 1500 字、合計 4500 字以上）。 **留意点**：どの受講者がどの章を要約するかは，相談によって決定する。
リポート課題 2	課題図書での議論を参考にして，自分で文学作品・芸術作品（映像作品などふくむ）を一つ以上とりあげて翻訳という観点から論じなさい（6000 字以上）。 **留意点**：扱う作品は日本語含め，どんな作品でもかまわない。

基　本　教　材　2	
教材の概要	著者名：　Emily Apter, *Against World Literature: On the Politics of Untranslatability*, New York: Verso, 2013. ISBN-10: 1844679705 教材名：
	著者は「翻訳不可能性」をキーワードに，「世界文学」に対して批判的な態度をとっている。翻訳研究という立場からは，ジェレミー・マンディ『翻訳学入門』のようなスタンダードな入門書とはかなり毛色が異なる内容である。
参考図書	エミリー・アプター『翻訳地帯――新しい人文学の批評パラダイムにむけて』慶應義塾大学出版会，2018 年。5500 円＋税。ISBN-10: 4766425189
履修上のポイント	当然ながら，引用されている文献，関連文献にできるだけ目を通してから課題に挑戦すること。
リポート課題 1	課題図書の Part One の内容を要約しなさい（4000 字以上）。もちろん Part Two 以降も読むこと。 **留意点**：受講者が複数いる場合，Part Three の要約を課すこともある。
リポート課題 2	課題図書の議論を参考にして，自分で文学作品・芸術作品（映像作品などふくむ）を一つ以上とりあげて翻訳という観点から論じなさい（6000 字以上）。 **留意点**：扱う作品は日本語含め，どんな作品でもかまわないが，前期とは異なるものを選ぶこと。

基本教材１

第１回	教材の学修：基本教材１の Introduction
第２回	教材の学修：基本教材１の１章～2 章
第３回	教材の学修：基本教材１の３章～4 章
第４回	教材の学修：基本教材１の５章～6 章
第５回	教材の学修：基本教材１の７章
第６回	教材の学修：基本教材の内容について教員とディスカッション
第７回	リポート課題１：初稿の作成
第８回	リポート課題１：添削指導に対する修正稿の作成
第９回	リポート課題１：最終稿の作成
第 10 回	リポート対象作品の選定と読解
第 11 回	リポート対象作品の先行研究のまとめ
第 12 回	リポート対象作品について教員とディスカッション
第 13 回	リポート課題２：初稿の作成
第 14 回	リポート課題２：添削指導に対する修正稿の作成
第 15 回	リポート課題２：最終稿の作成

基本教材２

第１回	教材の学修：基本教材２の Introduction
第２回	教材の学修：基本教材２の Part1
第３回	教材の学修：基本教材２の Part2
第４回	教材の学修：基本教材２の Part3
第５回	教材の学修：基本教材２の Part4
第６回	教材の学修：基本教材の内容について教員とディスカッション
第７回	リポート課題１：初稿の作成
第８回	リポート課題１：添削指導に対する修正稿の作成
第９回	リポート課題１：最終稿の作成
第 10 回	リポート対象作品の選定と読解
第 11 回	リポート対象作品の先行研究のまとめ
第 12 回	リポート対象作品について教員とディスカッション
第 13 回	リポート課題２：初稿の作成
第 14 回	リポート課題２：添削指導に対する修正稿の作成
第 15 回	リポート課題２：最終稿の作成